「新・折尾駅」に活かされる歴史遺産

＝ 折尾出張所に保存展示 ＝

【待合室 丸椅子】
昔は2つあった

【待合室出入口の装飾】

【丸椅子】 【屋根 装飾】

「新・折尾駅」に活かされた歴史遺産（階段）

「御影石調の階段」に「赤煉瓦の壁」

【旧・折尾駅】
滑るのでコーティングされていた

【新・折尾駅】
2017(平成29)年1月2日～

立体交差駅「折尾駅」 最大の特徴！！

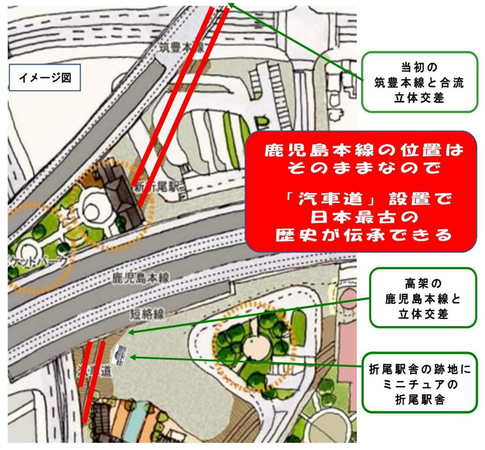
＝『立体交差駅の特徴』を継承！

「新・折尾駅」も
車窓から
「駅舎の正面」が見える！

＝ 場所の記憶で語り継ぐ ＝

筑豊本線の線路跡に
本物のレールを活用した
モニュメント『汽車道』

【横浜：汽車道】



みんな楽しく街に出よう！！

＝「実践研究型・多世代交流」をテーマにした街 ＝

折尾駅周辺に「堀川運河」や「歴史遺産」がコンパクトに集中している街
学園都市、学術研究都市、医学部、大学病院などがある街
「学生の街・折尾」だからこそできる「新たな試み」

移動
安全に、自由に
移動ができます

ふれあい
楽しいおしゃべりで
笑顔が増えます

（人にやさしい街づくり）

安心
トイレの心配なく
安心して出かけられます

つながり
情報交換や交流で
社会参加が増えます

やさしさ
買物・食事などの
お手伝いや介助もあります

思いやり
自宅から街への送迎
お買い物の配達もあります

年齢・性別・国籍・障がいにかかわらず
だれでも安心して、いつでも、どこでも
自分の意思で・自分のペースで出かけて楽しめる街

【折尾紹介】
歴史や文化
学生の街

【北九州市】
折尾地区総
合整備事業

- 外出困難な方の外出が可能になり、社会参加が増え、健康増進につながります
- 自立した生活ができることで、介助負担・介護費・医療費の軽減につながります
- 昼間の来訪・居住人口が増加し、商店街や街全体の活性化につながります
- 「多目的複合施設」では、交流や食事もでき、介護などの相談もできます
- 「地域通貨オリオン」の活用で、ボランティア活動が活性化されます
- 「実践型・多世代交流」で、学生と地域の交流の輪が広がります

折尾総合
整備事業は
「住み慣れた街で、生まれてから死ぬまで
笑顔で暮らせる街」にするチャンスです！

折尾総合整備事業も終盤、提案は早目に！

折尾地区総合整備事業　まちづくりの目標 ：「住みやすく、魅力的で、にぎわいのあるまちづくり」

【折尾地区の概要】

◇「折尾地区」は、古くから石炭輸送の要衝として栄え
鉄道により、我が国の産業に大きく貢献

◇近年では，隣接する遠賀・中間地域を含めた行政の中心地として、また周辺部の住宅開発の進展と併せ、北部九州の学園都市として発展

〔折尾駅〕
◇乗降客数
約3万2千人/日、2016(平成28)年度：JR九州管内第5位

〔学園都市〕
◇学生数約1万2千人（北九州学術研究都市を含む）
高校5校、短期大学2校、大学・大学院7校
（北九州市の高校・短期大学・大学・大学院の1/4が集まる）

〔サービス圏人口〕
◇約20万人を抱える、北九州西部都市圏の中心核

【折尾駅周辺の問題点】

◇鉄道による市街地の分断
踏切(9箇所)による交通渋滞

◇道路などの基礎整備の遅れ

◇学園都市の玄関口として
商業・業務・文化施設などの不足

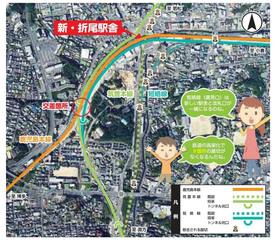
【事業概要】

折尾駅を中心とした既成市街地を学園都市の玄関口にふさわしい地域拠点として再整備するための事業を実施する

①「連続立体交差事業」：鉄道の高架化やトンネル化を行う

②「街路事業」：幹線道路の拡幅や駅前広場の整備などを行う

③「土地区画整理事業」：駅南側の住環境の改善を目指す



①連続立体交差事業

・「9個所の踏切」撤去
・全てのホームにエレベーターとエスカレーター設置
駅や駅前広場の交通結節機能の向上

（事例）スペースワールド駅 コンコース

新・折尾駅舎 デザイン案

②街路事業

・安全でスムーズな道路
・バリアフリーの快適な歩道

③土地区画整理事業

・消防車・救急車が迅速に通れる
安全・安心な区画道路

「新・折尾駅」周辺 イメージ図

イラスト提供：KK開発共同企業体

【スケジュール】

◇2004(平成16)年
事業開始

◇2012(平成24)年度
暫定供用：仮駅舎(北口)

◇2016(平成28)年度
切替：鹿児島本線(仮線)

◇2018(平成30)年度
切替：筑豊本線(単線)

◇2019年
切替：筑豊本線(複線)

◇2020年度
切替：鹿児島本線
完成：新・折尾駅舎

◇2021年度
切替：短絡線

※道路や区画整理は
段階整備・暫定供用

◇2025年度
事業完成予定

制作：学園＆地域交流ネットワーク　連絡先：090-2710-6810　mail：info@friestar.com